

予報期間 12月17日から12月23日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 19日は、高気圧が日本の東へ移動して、低気圧が日本海北部へ進む。
- 20日は、低気圧がオホーツク海へ進み、前線が北日本付近へのびる。
- 21日は、低気圧がオホーツク海を北上して前線が北日本付近を通過する。気圧の谷が本州南岸を東進する。
- 22日は、気圧の谷が日本の東へ進み、高気圧が沿海州付近へ移動する。
- 23日は、高気圧が北日本付近へ移動する。

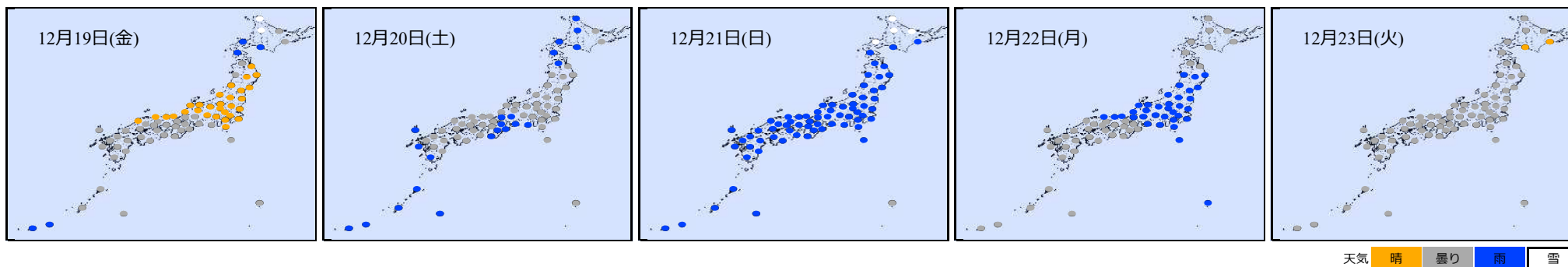
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

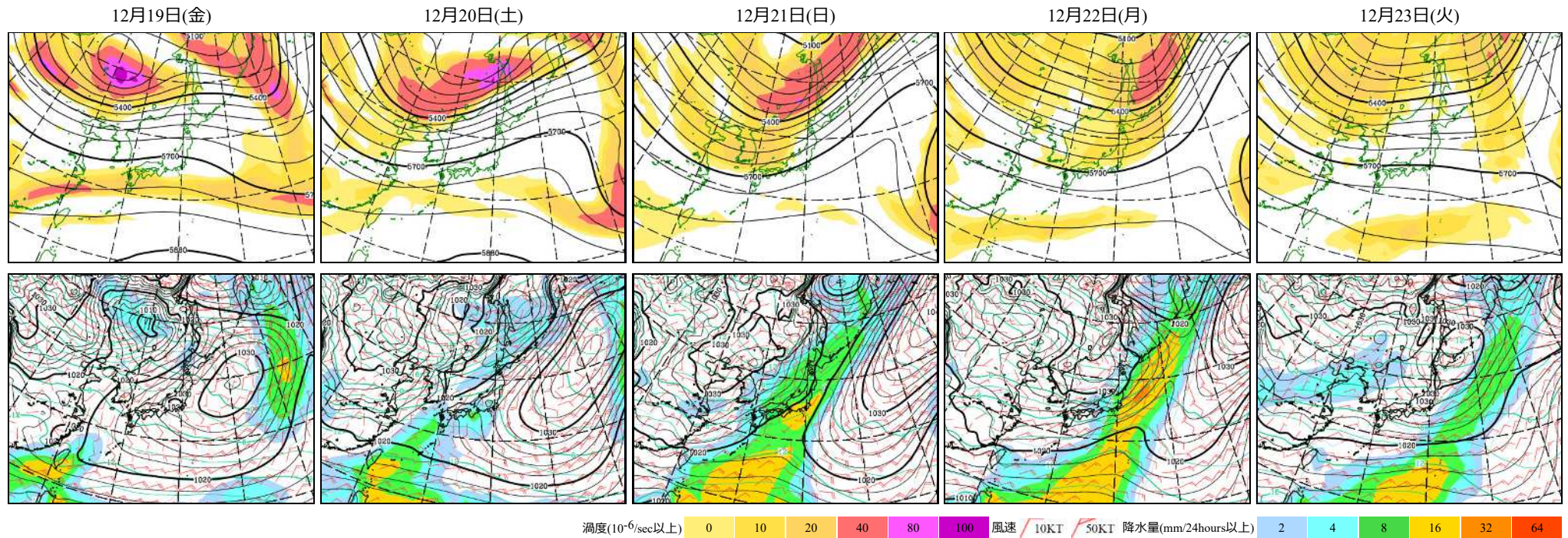
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

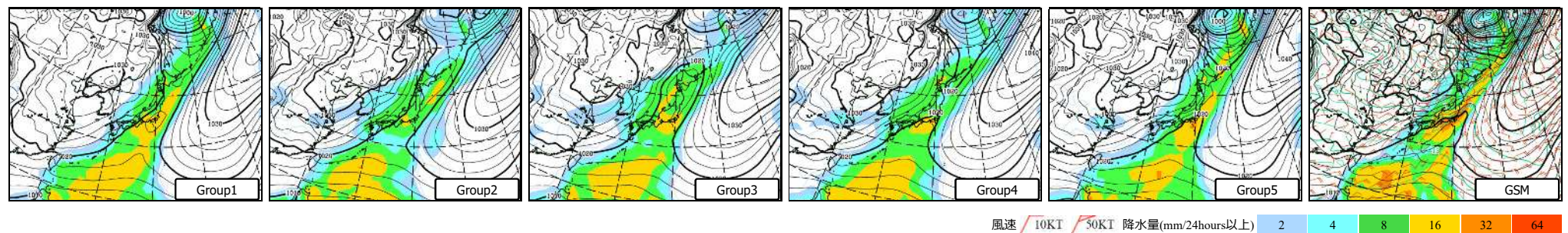


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、19日は晴れる所が多い。
- 東日本太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、20日から22日は雨の降る所がある。
- 西日本太平洋側は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、19日から21日にかけては雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、21日頃に日本付近へ進むトラフが深くなり、北日本を通過する前線や本州南岸の気圧の谷が明瞭となったことに対応して、北日本から西日本にかけての降水確率が大きくなった。
- 各モデルとも、21日は前線が北日本を通過して、本州南岸を気圧の谷が進む予想は昨日資料に比べ揃ってきた。22日から23日は、気圧の谷が日本の東へ進み、高気圧が北日本付近へ移動する予想については、それぞれの位置にモデル間の差がみられる。
- スプレッドは比較的小さく、各特定高度線のばらつきも小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。